

※写真:五老ヶ岳から舞鶴湾を一望(舞鶴市ホームページから引用)

【MAIZURU 地域医療シンポジウム】

(第2部)パネルディスカッション

～「医療現場の実際と今後の展望」～

病院紹介：舞鶴医療センター 院長 法里 高

舞鶴鎮守府・海軍病院

明治34年創設、今年で122年

独立行政法人  国立病院機構

舞鶴医療センター



一般病棟（7F・免震構造：165床）

精神病棟（2F：120床）

引揚患者の上陸第一病院に指定

献納画



【京都府保健医療計画】

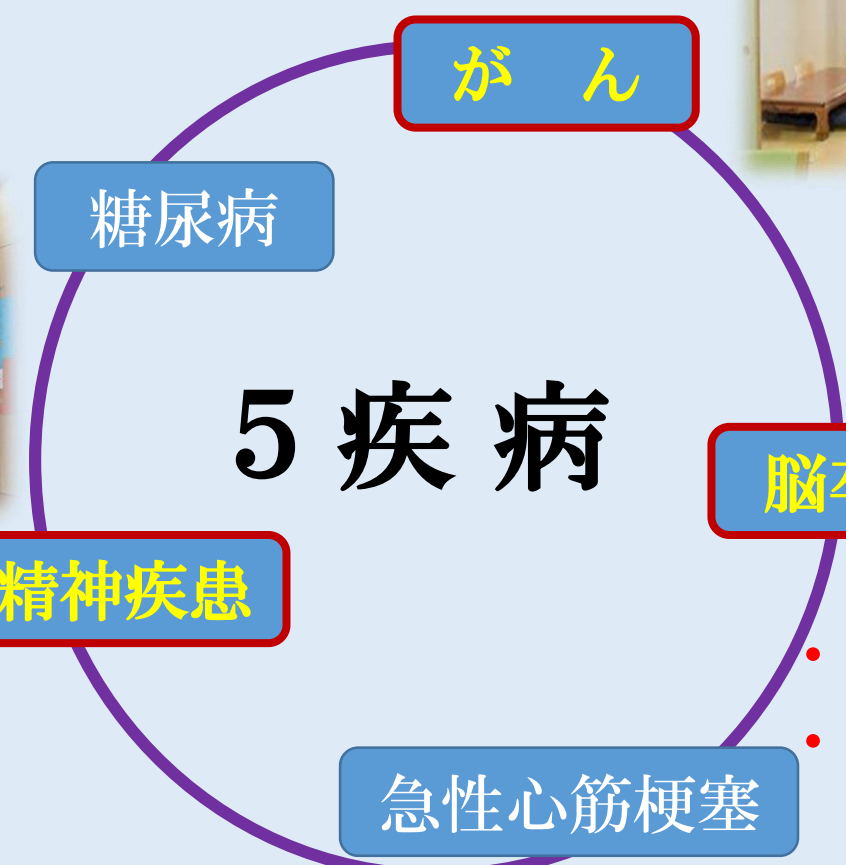
6つの二次医療圏

- ①丹後医療圏・・・京丹後市、宮津市、伊根町、与謝野町
- ②中丹医療圏・・・舞鶴市、福知山市、綾部市
- ③南丹医療圏・・・南丹市、亀岡市、丹波町
- ④京都・乙訓医療圏・・・京都市、長岡京市、向日市、大山崎町
- ⑤山城北医療圏・・・宇治市、城陽市、八幡市、他、4市3町
- ⑥山城南医療圏・・・木津川市、精華町、他、1市3町1村



【京都府保健医療計画】

『舞鶴医療センター』が担う役割



- ・近畿北部唯一の『緩和ケア病棟』を整備（15床）
- ・『京都府がん診療連携病院』

- ・SCU 6床 整備
- ・『脳卒中急性期医療を担う医療機関』
- ・『一次脳卒中センター（PSC）』

- ・統合失調症、うつ・躁うつ病、児童思春期、アルコール・薬物依存症等の専門医療
- ・一般診療科と精神科の連携強化等による身体合併症患者の受入促進
- ・北部地域における『精神科救急基幹病院』
- ・『認知症疾患医療センター』

※赤字・・京都府から「指定」

【京都府保健医療計画】

『舞鶴医療センター』が担う役割

『救急告示病院』

市内救急搬送人員

・令和4年 3,789人
うち、当院へ1,537人 (40.6%)

・令和5年1月～11月
3,625人

うち、当院へ1,417人 (39.1%)
(舞鶴市消防本部資料から)



石川県知事から国立病院機構
に派遣要請。
当院から医療班を派遣(1/16～20)

・新型コロナウイルス感染症

『重点医療機関』即応病床23床

今回の新型コロナウイルス感染症の発生・
感染拡大への対応の教訓を踏まえ、
医療提供体制を追加

小児医療

・市内で唯一、入院を必要とする小児疾患患者
の受入医療施設



周産期医療

・北部地域における
『周産期医療サブセンター』

・「ハイリスク分娩」の受入

・当院のドクターカーによる近隣
医療機関及び府立医大附属病院
との間で、超未熟児を含む未熟
児の送迎

・NICU (新生児集中治療室) 6床

・LDR室

Labor (陣痛)、Delivery (出
産)、Recovery (回復) の略。
陣痛の始まりから、出産、出産
後まで同じ部屋で。

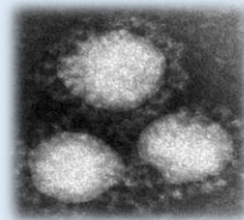
救急医療

5 事業

災害医療

へき地医療

新興感染症対策医療
(令和6年度～)



6つ目の
事業

※赤字・・京都府から「指定」

【京都府保健医療計画】

その他、『舞鶴医療センター』が担う役割

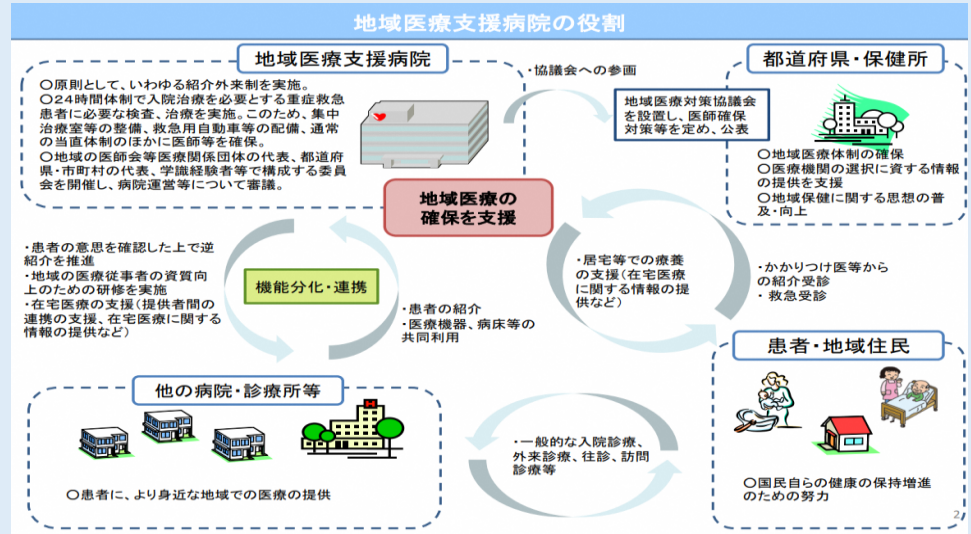
『地域医療支援病院』

地域の医療機関と連携をとり、病院の施設・設備を共同で利用できる体制、地域の医療従事者の質向上を図るための研修を行うなど、地域医療の中核を担う役割

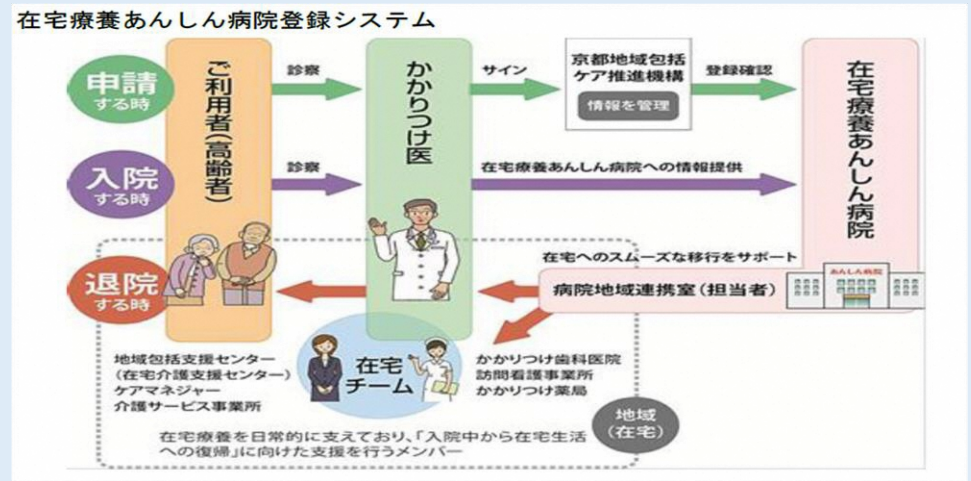
『在宅療養あんしん病院』

在宅療養中の高齢者の方が体調を崩し、在宅での療養が困難になる前に、スムーズに病院で受診し入院することで、病状の悪化や日常生活動作の低下をできるだけ防ぎ、退院後、在宅生活を続けられるよう医療機関とかかりつけ医、地域包括支援センターやケアマネジャー等が連携してサポートする

※赤字・・・京都府から「指定」



※図：厚労省ホームページから抜粋



※図：「京都府保健医療計画」から抜粋

【直面している課題とその対応・改善策】

「医師」不足

《現 状》

市内公的3病院の標榜診療科が重複していることによる医師不足。

→医師の偏在 →医師の疲弊 →患者数の減 →病床利用率の低下 →経営状況の悪化

《今後の改善策》

人口減少・病床利用率低下からみて、公的病院各診療科の合計医師数は充足。

→非効率な医師配置を解消

「看護師」不足

《現 状》

看護師、特に助産師不足。看護学校「閉校」後の看護師確保が更に困難。

《現在の対応策》

他の国立病院機構病院からの『派遣』。病院独自の『奨学金』制度の創設。

《今後の改善策》

実習生の受入強化。→当院の魅力をPR。

潜在看護師の掘り起こし→ブランクによる不安を解消するための就職を前提とした復職プログラムを作成